

ケース 4.2 移民がつくるアフリカの歴史

他の地域にもあてはまることであるが、人口移動は数千年にわたりアフリカを形成する上で大きな役割を果たしてきた。環境、経済、文化そして政治における大きな変動が歴史上の大量移民を引き起こし、アフリカ社会を形成するとともに、人々の生活様式を形作ってきたのである。アフリカの伝統は、ヨーロッパ植民勢力の進出によって破壊され、変容を余儀なくされた。植民地主義は、経済的搾取、政治的支配、文化変容をもたらした。大西洋奴隷貿易は、環大西洋経済の発展を促す重要な要素となったが、他方でアフリカの西部と中央地域に絶大なる災いをもたらした。1945年以降になり、植民地主義は終息し始めたものの、アフリカに残されたものは、低開発と貧困であった。そして、こうした社会環境が、アフリカからの国際移民の発生を促したのである。

アフリカの大湖沼地域で人類の祖先が誕生し、その後何万年もかけて世界に拡散していった。研究者たちは、アフリカから大きな移民の流れが始まったのは約 20 万年前であり、移動を促したのは、人口を増加させた技術革新であり、人々が拡散し始めたからだと考えている。例えば、1万 5,000 年ほど前には、ヌビア・紅海沿岸（現代のエジプト南部とスーダンと重なる）地域に住んでいた人々は、野生穀物の集約的農耕化に成功して人口が増加し、新しい地域に進出することができたのである。言語の発祥経緯や系譜を調べると、そこに移民の影響をみることが可能である。セム語やベルベル語族は、エチオピア近辺からアフリカの角地帯全域に拡散していったが、それに対して、ナイル・サハラ語はスーダンからチャド湖の北部に広がっていった。バンツ族諸語は、約 5,000 年前に今日のカメルーン辺りで生まれた後、南アフリカのナタール地域にまで到達している。アフリカの先住の人々の言語と、征服者たちの言語が長い間かけて混淆し、信じられないほどアフリカの言語的多様性が拡大してきたのである。

気候や生態学的な変化が移民を引き起こす原因ともなる。紀元前 2500 年頃までに出来上がったサハラ砂漠は、サブサハラアフリカ地域を他の世界から孤立させた。しかし、気候は変動し、長い間には湿潤期と乾燥期が交互にやってきた。この地域に移住する人々や逆に出て行く人の移動の動きに大きな影響を与えた。旱魃は、この地域の多くの人々を移住させてアフリカ大陸に拡散させた。一般的にいうと、乾燥期には北から南への人口移動が起き、湿潤期には南から北への移住が引き起こされることが多かった。

植民地化以前のアフリカ各地において、移民は通常の生活の一部であった。このなかには新しい領土を切り開くための移住や、戦争や迫害を避けるための移住もあったが、狩猟、交易、農業、布教のための季節的で循環的な移動も含まれていた。しかし、このような通常の移民は、アフリカ地域外のアジア、ヨーロッパ、アメリカとの交易や、あるいは域外からの侵略によって中断され複雑になることがしばしばあった。

紀元前 1000 年頃、オーストラリア・ポリネシア地域に住むマラガシ族の人々は長距離航

ケース 4.2 移民がつくるアフリカの歴史

海能力をもつようになり、今日のアフリカ東南部沖にあるマダガスカル島にまで到達している。北アフリカをムスリムが征服したことにより、マグレブ地域の中核を構成するモロッコ、アルジェリア、チュニジアと中東地域とがつながるようになった。広大なサハラ砂漠は、マグレブ地域とサヘル地域およびサブサハラ地域とを分断した。サヘルとは、サハラ砂漠の南端と直接に接する地域と、西アフリカの北部にある肥沃な海岸地域を指し、今日のセネガル、モーリタニア、マリ、ブルキナファソ、ニジェール、ナイジェリア、チャド、スーダン、そしてエリトリアを含んでいる。ベドウィンの人々がアラビア地域から北アフリカに移民してきた後を追って、ヒラール族やスレーム族が率いる集団がラクダの背なかに乗ってエジプトの砂漠を横切って移民してきている。北アフリカのアラビア化の過程はヒラール族が今日のチュニジア、アルジェリア、モロッコ、そして西サハラに到着しアラビア語をもたらしたことによってほぼ完遂した。それにもかかわらずベルベル人たちの多くは、タマジクト語やベルベル語をいまでも話している。

奴隷貿易はヨーロッパ人がアフリカに到着してから拡大し、甚大な影響を与えたが、奴隷貿易そのものは紀元後 5 世紀にはその萌芽がみられ、奴隷貿易の中心地は 7 世紀頃までにはアフリカ熱帯地域から、地中海地域やアラビア半島に移っていった。現在のウクライナやその他のスラヴ地域（スラヴ [Slav] という言葉はラテン語の奴隷 [sclavus] を語源としており両者の類似に注意）など黒海の北の地域は 12 世紀から 15 世紀にかけて地中海沿岸地域への主要な奴隷供給地であった。その当時、西アフリカで、征服された民族は奴隷集団になるという考え方が普及し、同地域に大きな影響を与えた。征服した男たちをいつまでも監視化しておくのは危険なことでもあったので、征服した集団はすぐに捉えた男たちを、農業労働者を必要とした北アフリカやヨーロッパからの奴隷商人に売るという習慣が確立し、後には、海外の工場やプランテーションが成長すると、海外に奴隷を売り飛ばすようになったのである (Curtin, 1997)。

15 世紀以降は、ヨーロッパによる植民地化によって、それまでの移民の流れは破壊された。15 世紀にはまずポルトガルが西アフリカに到着し、その後、オランダ、英国、フランスが続いた。アフリカ系でカリブ海出身の研究者として先駆的なウォルター・ロドニーは、低開発は条件ではなく過程にすぎないと指摘している。すなわち、ヨーロッパは近代初頭よりアフリカを低開発にしておくことで、発展してきたのである。アフリカの労働力と資源を搾取してヨーロッパとアメリカの経済が築かれたのだが、その間、アフリカの経済成長と政治的近代への機会は奪われていたのである (Rodney, 1972)。人間の移動を管理することは常に植民地主義の不可欠な要素だった。

植民地主義の展開の初期にヨーロッパ人商人は軍人と結託して、アフリカ湾岸諸地域を征服し、それらの地域を基地として利用しアフリカの人々を強制的に奴隷にした。天然痘、マラリア、黄熱病などの病気はアメリカの先住民たちに破壊的な影響を与え、人口減少を引き起こしていた。こうしたことから、ヨーロッパ人はアフリカ人奴隷を新世界に運び、そこで換金作物である砂糖、綿花、タバコ栽培のための集約的労働力として働かせること

ケース 4.2 移民がつくるアフリカの歴史

にした。奴隷貿易の最盛期は 18 世紀後半にあり、毎年 8 万人ほどのアフリカ人が奴隷として移民していた。最初の行き先地はカリブ海の諸島でありブラジルであった。

16 世紀から 19 世紀にかけて約 1,500 万人の奴隷が南北アメリカとカリブ海地域に運ばれている。プランテーション労働を搾取して集積された資本は、ヨーロッパの工業化の基盤となった。その当時、アフリカへのヨーロッパからの兵士や行政官そして商人の移民がみられたが、大量の移民を動員する定住植民地形成への動きはまだ少なく、1652 年に現在の南アフリカ・ケープ地方に上陸したオランダからの植民移民が占拠した地域で目立つ程度であった (Mafukidze, 2006: 109)。

19 世紀から 20 世紀初期にかけての帝国主義の時代には、ヨーロッパの列強諸国はアフリカを直接的に管理するとともに占拠しようとして互いに競争していた。その基本目的は、アフリカの農業・鉱物資源の確保にあった。英国のような先進諸国にとり、新世界への奴隷貿易は、もはや経済的な意味を失っていた。ヨーロッパ諸国はアフリカを分割し、既存の政治構造を破壊し、伝統的な部族地域の境界を無視して新しい境界線を引き、歴史的な移民の経路を分断したのである。移住するヨーロッパ人の数は増え、農場やプランテーション、そして鉱山も増えていった。白人植民地行政官や商人たちとともに、植民者は新しい政治的・経済的エリートとなっていった。アフリカ人は、強制的に労働者としてプランテーションや鉱山で働かされるようになった。他のアフリカ人は、かつては自分の土地であったところにある白人農場の労働者や家事労働者となった。他には、道路や港湾、ヨーロッパ人の住宅建設のために働かされるか、植民地軍に徴兵されていた。

アフリカ人をこうした労働に追いたてるには、農業用地を収用したり (ケニアやジンバブエのように良い土地をヨーロッパ人に割り当てるために行われることが多かった)、課税 (人頭税や家屋税を課税) するなどして、アフリカ人を貨幣経済に巻き込んだり、あるいは暴力を利用したりしていた。1860 年には、南アフリカのナタール地方はインドの英国植民地政府と協定を結び、年季契約労働者を同地域に移住させることになった。その動きはその後数十年にわたり続けられた。ケニアでは、英国政府がモンバサとヴィクトリア湖の間の鉄道建設のためにインド人労働者を導入していた。今日、南部アフリカには、インド系の住民が約 100 万人在住していると見積もられている。中国人鉱夫も年季契約労働者として南アフリカで働いていたが、英国政府が介入した後、その多くは帰国している。19 世紀後半には、南アフリカで金とダイヤモンドが発見され、短期契約若年労働者を土台とした鉱山労働制度が発達し、後のアパルトヘイト体制の基礎がつけられるようになった。両大戦間期には、植民地政府はアフリカ人を労働者として、また兵士としてヨーロッパでの戦いの支援にあたらせた (Mafukidze, 2006; Rodney, 1972; Zlotnik, 2004)。

植民地化による搾取が生んだ遺物が、低開発と貧困状況である。1950 年代から 1970 年代にかけての植民地解放闘争の時代には、経済的資源の不足や行政官要員の不足状態のなかで、ナショナリストたちは新しい国民国家の建設に邁進したのである。新国家は植民地としてつくられた領域を下敷きにつくられたために、歴史的にはひとつだった集団を分割

ケース 4.2 移民がつくるアフリカの歴史

する一方で、別々のグループをひとつにまとめるということになった。このような恣意的な国境線に基づく新国家では、独立後、国家運営の主導権争いに悩まされることになった。アフリカの新独立諸国の指導者たちは、冷戦で対立する国々からの影響に積極的に対応しようとした。兵器とともに多くの軍事指導者がヨーロッパ、アメリカ、ロシア、東ヨーロッパそしてキューバから流入し、アンゴラやモザンビーク、ザイールやエチオピア、そして他の多くのアフリカ諸国で、激しい冷戦の代理戦争が数多く発生した。南アフリカ共和国のアパルトヘイトは、1990年代まで白人支配の遺物として生き残っていたが、その間、武力に物をいわせて隣国に侵略していたこともあり、そのおかげで南部アフリカの発展は停滞したのである。

以上の歴史的背景を知ることが、アフリカの難民の移動、国内避難民や大量の経済移民の動きと、その後の20世紀後半にかけて拡大する動きを理解する上で重要である。ヨーロッパや北アメリカのメディアは、「アフリカは永遠の危機の大陸」だとのイメージを報道するのに忙しいが、危機状態はアフリカ経済と社会のヨーロッパ植民地主義による破壊の結果であり、そのような報道はこの恥辱的な歴史と関連した人種的偏見に基づくものである。

【参考文献】

- Curtin, P. D. (1997) 'Africa and Global Patterns of Migration' in Gungwu, W. (ed.) *Global History and Migrations*, (Boulder, CO: Westview).
- Mafukidze, J. (2006) 'A discussion of migration and migration patterns and flows in Africa' in Cross, C., Gelderblom, D., Roux, N. and Mafukidze, J. (eds.) *Views on Migration in Sub-Saharan Africa*, (Cape Town: HSRC Press).
- Rodney, W. (1972) *How Europe Underdeveloped Africa* (London: Bogle-L'Ouverture).
- Zlotnik, H. (2004) *International Migration in Africa: an Analysis based on Estimates of the Migrant Stock*. (Washington, DC: Migration Information Source) accessed 29 August, 2006.